

東京都立淵江高等学校 令和3年度 教科 国語 科目 古典 年間授業計画

教科：国語科 目：古典B 単位数：2単位

対象学年組：2学年選択

教科担当者：(田中)

使用教科書：(「新編古典B」東京書籍)

使用教材：(「新国語便覧」第一学習社 「解析古典文法演習ノート」桐原書店 「みるみる覚える古文単語」いっずな書店)

	指導内容	科目の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
4月	1、古文の学習の仕方の確認 2、「小野篁、広才のこと」『宇治拾遺物語』 3、用言の復習 4、助動詞「き、けり、つ、ぬ、たり、り、ず」	1-① 繰り返しの音読を勧め、実際にやらせる。 -② 予習のやり方を伝え、実際にやらせる。 2・3・4・5 -① 古語のリズムに慣れさせるための指導 ・ペアで読み合わせをさせる。 -② 自分で調べさせ、考えさせるための指導 ・古語を一つひとつ調べさせる。 ・動作一つひとつの主語を考えさせる。 ・概略を考えさせる。 -③ 基礎的な知識を理解させる指導 ・助動詞 ・和歌の修辭 ・文学史 -④ 主体的な取組を通して考えを深化させるための指導 ・会話や行動などの因果関係を考えさせる。 ・登場する人物像について、様々に発表させる。 ・時代背景や当時の価値観を、現代と比較させる。	①関心・意欲・態度 授業中の主体的な取組、古文単語の小テスト・提出物の内容など ②思考・判断 授業中のアウトプット、定期考査、提出物の内容など ③技術・表現 授業中のアウトプット、定期考査、提出物の内容など ④知識・理解 授業中のアウトプット、古文単語の小テスト、定期考査、提出物の内容など	24
5月	5、中間考査の振り返り	5-① 出題のねらいを理解させる。		
6月	6、「大江山」『十訓抄』 7、和歌の修辭法 8、助動詞「る、らる、す、さす、しむ」 9、文法事項の復習 10、文学史①	6・7・8・9・10 -① 古語のリズムに慣れさせるための指導 ・ペアで読み合わせをさせる。 -② 自分で調べさせ、考えさせるための指導 ・古語を一つひとつ調べさせる。 ・動作一つひとつの主語を考えさせる。 ・概略を考えさせる。 -③ 基礎的な知識を理解させる指導 ・助動詞 ・和歌の修辭 ・文学史 -④ 主体的な取組を通して考えを深化させるための指導 ・会話や行動などの因果関係を考えさせる。 ・登場する人物像について、様々に発表させる。 ・時代背景や当時の価値観を、現代と比較させる。 ・作品の「その後」を考えさせ、発表させる。	①関心・意欲・態度 授業中の主体的な取組、古文単語の小テスト・提出物の内容など ②思考・判断 授業中のアウトプット、定期考査、提出物の内容など ③技術・表現 授業中のアウトプット、定期考査、提出物の内容など ④知識・理解 授業中のアウトプット、古文単語の小テスト、定期考査、提出物の内容など	
7月	11、期末考査の振り返り	11-① 出題のねらいを理解させる。		
8月				

	指導内容	科目の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
9月	12、「帰京」『土佐日記』 13、助動詞「む、むず、べし」 「らむ、けむ、らし、めり、なり、まし」 14、文学史② 15、中間考査の振り返り	1 2・1 3・1 4 一① 古語のリズムに慣れさせるための指導 一② 自分で調べさせ、考えさせるための指導 一③ 基礎的な知識を理解させる指導 ・助動詞 ・文学史 一④ 主体的な取組を通して考えを深化させるための指導 ・詠み手の心情について、様々に発表させる。 ・歌の詠み手や登場人物像について、様々に発表させる。 ・人が人を思う気持ちを、現代と比較させる。 ・会話や行動などの因果関係を考えさせる。 ・登場する人物像について、様々に発表させる。 ・時代背景や当時の価値観を、現代と比較させる。 ・作品の「その後」を考えさせ、発表させる。	①関心・意欲・態度 授業中の主体的な取組、古文単語の小テスト・提出物の内容など ②思考・判断 授業中のアウトプット、定期考査、提出物の内容など ③技術・表現 授業中のアウトプット、定期考査、提出物の内容など ④知識・理解 授業中のアウトプット、古文単語の小テスト、定期考査、提出物の内容など	28
10月		1 5 一① 出題のねらいを理解させる。 一② 問題の考え方と答え方を理解させる。 一③ 正解とならなかった原因を確認させる。		
11月	16、「門出」『更級日記』 17、助動詞「ず、じ、まじ、なり、たり」 18、文学史④ 19、期末考査の振り返り	1 6・1 7・1 8 一① 古語のリズムに慣れさせるための指導 一② 自分で調べさせ、考えさせるための指導 一③ 基礎的な知識を理解させる指導 ・助動詞 ・文学史 一④ 主体的な取組を通して考えを深化させるための指導 ・詠み手の心情について、様々に発表させる。 ・歌の詠み手や登場人物像について、様々に発表させる。 ・人が人を思う気持ちを、現代と比較させる。 ・会話や行動などの因果関係を考えさせる。 ・登場する人物像について、様々に発表させる。 ・時代背景や当時の価値観を、現代と比較させる。 ・作品の「その後」を考えさせ、発表させる。	①関心・意欲・態度 授業中の主体的な取組、古文単語の小テスト・提出物の内容など ②思考・判断 授業中のアウトプット、定期考査、提出物の内容など ③技術・表現 授業中のアウトプット、定期考査、提出物の内容など ④知識・理解 授業中のアウトプット、古文単語の小テスト、定期考査、提出物の内容など	
12月		1 9 一① 出題のねらいを理解させる。 一② 問題の考え方と答え方を理解させる。 一③ 正解とならなかった原因を確認させる。		

	指導内容	科目の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
1 月	20、「漂泊の思ひ」「旅立ち」『奥の細道』	20・21・22 <ul style="list-style-type: none"> －① 古語のリズムに慣れさせるための指導 －② 自分で調べさせ、考えさせるための指導 <ul style="list-style-type: none"> ・教材の前後の史実を調べさせる。 －③ 基礎的な知識を理解させる指導 <ul style="list-style-type: none"> ・助動詞 －④ 主体的な取組を通して考えを深化させるための指導 <ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の考え方や行動について、様々に発表させる。 ・奥の細道の行程や距離やかかった時間を調べさせる。 	①関心・意欲・態度 授業中の主体的な取組、古文単語の小テスト・提出物の内容など ②思考・判断 授業中のアウトプット、定期考査、提出物の内容など ③技術・表現 授業中のアウトプット、定期考査、提出物の内容など	18
2 月	21、助動詞「まほし、たし、ごとし・音便」 22、助動詞総復習 23、期末考査	23 <ul style="list-style-type: none"> －① 出題のねらいを理解させる。 －② 問題の考え方と答え方を理解させる。 －③ 正解とならなかった原因を確認させる。 	④知識・理解 授業中のアウトプット、古文単語の小テスト、定期考査、提出物の内容など	
3 月				